

《平成28年 研究会活動紹介》

研究会名	代表者氏名
賴瑜撰『真俗雜記問答鈔』訳注研究会	小宮俊海 研究員
研究会名 略称: 真俗雜記 研究会	所 属: 智山
活動紹介	
【活動内容】 本研究会は、新義真言教学の祖とされる賴瑜(1226-1304)撰『真俗雜記問答鈔』の本文訳注研究を目的としている。本書は賴瑜が諸師から受けた口伝をはじめ、真俗にわたる様々な記事や記録など、1320余篇からなる雑記集である。一僧侶の教理的著作の域を超えて、中世に生きた賴瑜の人間性、さらには当時の社会状況や宗教文化までをも窺うことのできる貴重な資料である。本書は既に『真言宗全書』第37巻に、27巻本として活字化されるものの、底本・対校本2本ともに欠巻があり、校訂テキストとしてまだ不十分といえる。そこで当研究会では、智積院新文庫蔵本(全25冊・寛永十六年(1639)写)を底本とし、諸写本との校合により校訂テキストを作成し、訳注を順次進めている。また各条目の諸問題については解説を加えている。この成果により、日本密教研究に一視点を加えるとともに、広く中世研究にとって重要な資料を提供したいと考えている。	
【活動実績】※出版/論文/受賞・研究助成の経歴など 2002(平成14)年以降、「『真俗雜記問答鈔』について」(『年報』25・2003)含め5本を『年報』並びに『仏教文化学会紀要』へ寄稿。その後、当所出版助成により『《賴瑜撰》『真俗雜記問答鈔』の研究』ノンブル社、2012.3.31刊行。その後、「賴瑜撰『真俗雜記問答鈔』訳注(一)一巻第一ー」(『年報』36・2014)/『賴瑜撰『真俗雜記問答鈔』訳注(二)一巻第二ノーー』(『年報』37・2015)/『賴瑜撰『真俗雜記問答鈔』訳注(三)一巻第二ノニー』(『年報』38・2016)を寄稿。	
【平成28年度活動計画】 ①賴瑜撰『真俗雜記問答鈔』巻三の校訂・訳注研究。 ②訳注研究に際し、(1)智積院新文庫本、(2)種智院大学本、(3)東大寺図書館本、(4)智山書庫蔵海応本、(5)智山書庫蔵慈忍本、(6)種智院大学密教資料研究所蔵長谷文庫本、(7)『真言宗全書』松長宥見本、(8)『真言宗全書』高野山正智院本の写本6本、刊行本2本の計8本から翻刻ならびに校訂本文の作成。	